

(様式 1-2) (用紙寸法は、日本工業規格 A 列 4 とする。)

(※本様式 1-2 については、別紙を添付することも可能とするが、別紙も含め、全体で 6 ページ以内に収めること。また、別紙を添付する場合は、A 4 サイズで作成すること。)

事業計画書

1. 事業の題名

「 ワンダフル・アキタカタ音楽祭 “WA 音” プロジェクト 」

2. 業務の委託期間

委託を受けた日から平成 年 月 日まで

3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
若者の自立・社会参画支援	
地域の防災拠点形成支援	
地域人材による家庭支援	
地域振興支援	○
その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援	◎

4. 支援プログラム実施組織の構成

①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
	安芸高田市教育委員会生涯学習課 課長	
	安芸高田市教育委員会生涯学習課 調整監 安芸高田市民文化センター 館長	
	安芸高田市教育委員会生涯学習課 文化振興係 係長	
	高宮田園パラッツォ 館長	
	安芸高田市文化団体連合会 会長	
	吉田町文化協会 会長	
	八千代町文化協会 会長	
	美土里町文化協会 会長	
	高宮町文化協会 会長	
	向原町文化協会 会長	

②事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる社会教育関係職員）

氏名	所属・役職等	備考欄
的場 恵	高宮田園パラッツォ 社会教育指導員	

5. 取組みの趣旨・目的

(地域の現状、解決すべき地域の課題、それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

本市は、高田郡6町が合併して平成16年3月1日に誕生した。広島県の中北部に位置し、冬季の気温が低く比較的冷涼な山間特有の自然状況を有し、市の北部は豪雪地帯に属している。市の人口は、平成26年6月1日現在30,220人で、前年に比べ929人減少している。一方、世帯数は13,184世帯で、前年とほぼ同様であり、一世帯当たりの人数は2.29人となり核家族化が進行している。また、他の地方都市と同様の過疎化・高齢化が大きな課題となっており、全国平均や広島県平均を上回る高齢化が進行し、出生率も低下する中で過疎化が進行している。小集落が多い山間部では、65歳以上の高齢化率が50%を越えており、集落の機能を維持することが困難になってきている。文化・芸術振興への影響も大きく、地域文化の担い手の逝去、地域外への転出、若い人材の流出といった課題が顕在化している。

こうした厳しい現状の中で、本市は、市民・地域・行政の三者が協働・連携して推進する『「安芸高田市教育基本計画」～「安芸高田・みつや協育」の推進～』を策定し、生涯学習の理念に基づく学校教育、社会教育、文化・芸術活動、スポーツ活動等の基本目標とその実現に向けた道筋を明らかにし、市民の期待に応える教育の実現を図っている。安芸高田市総合計画【3つの基本目標】の実現に向け、安芸高田・みつや協育では以下の4つの視点を設定している。

学校・家庭・地域の
つながり

知育・徳育・体育の
たかまり

過去・現在・未来の
ひろがり

郷土・国・世界への
はばたき

これらの4つの視点を推進するために、文化・芸術の振興は大変有効であると同時に、地域の活性化にも大いに効果的である。なぜなら、文化・芸術は個人の心の豊かさだけでなく、地域を担う人間の素養を育み、地域社会の豊かな発展に不可欠な存在であることが、平成23(2011)年に閣議決定された我が国の「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)」からも読み取れるからである。

安芸高田市総合計画の中でも、まちづくりの基本方向として、「心豊かで創造性に富んだまちづくり」を掲げ、生涯学習社会の形成と文化の振興を推進している。

当プログラムは、以下の三点を目的とする。

- ① 地域における文化拠点が、地域内外の文化的営みをつなぐプラットフォームとしての機能強化を図る。
- ② 文化・芸術振興をとおして、地域の魅力を創出できる人材育成と、地域社会の豊かな発展を目指す。
- ③ 地域の文化資源を保存、新たな魅力の開拓、地域内外への発信によって、住民相互の交流や、社会的・文化的背景が異なる共同体相互の新たな関係づくりを目指す。

6. 支援プログラムの具体的実施内容及び実施方法等

(具体的な実施内容)

音楽による人とまちの活性化をめざし、ワンダフル・アキタカタ音楽祭を開催する。(WA音プロジェクト)

“WA音”に込めた3つの願い～みつやハーモニー～

「輪」…文化の輪、笑顔の輪、まちの輪

「和」…音の調和をとおして、人とまちを調和させる

「羽」…安芸高田市から世界へ羽ばたく人材を育成する

本プロジェクトは、以下の三つの要素から構成される。

WA 音プロジェクト トライアド（三和音）

1. フェスティバル：「ワンダフル・アキタカタ音楽祭」開催（目的②、③）

音楽に特化した自主発表機会を提供し、市内の演奏者・団体がより高いレベルの演奏内容を目指とすることにより、安芸高田市の音楽レベルのさらなる向上を目指す。また、音楽祭来場者に対しては、生き甲斐活動への刺激を与え、文化振興を図る。

■開催場所 高宮田園パラッツォ（広島県安芸高田市高宮町佐々部 957）

■出演資格 安芸高田市に在勤・在住の音楽愛好家及び音楽愛好団体。プロ・アマ不問。

■公演内容 **ソロ・室内楽部門**（会場 文化ホール）：残響が深く響きのよい音響環境を活かし、PA なしの生音で演奏ができる演奏者・団体が出演（独奏、独唱、合唱、室内楽等）。音楽のジャンルは問わない。

バンド部門（会場 野外特設ステージ）：PA を必要とする電子楽器等による演奏。ソロボーカルの場合、伴奏音源を準備すること。

邦楽・JAZZ 部門（会場 セルウィンスクエア）：簡易な PA を必要とする独奏または小編成の邦楽、JAZZ 演奏。

フィナーレ（会場 文化ホール）：一般公募で結成された合唱団（以下、特別合唱団）による、安芸高田市合唱組曲（下記、音楽交流プログラム参照）の初演。

■表彰等 各部門聴衆投票制度を設ける。各部門の聴衆投票第一位獲得演奏者・団体に聴衆賞を授与する。聴衆賞受賞者・団体は、安芸高田市登録アーティストに認定（音楽交流プログラム 安芸高田市登録アーティスト制度参照）。また、後日開催される「聴衆賞受賞記念演奏会」に出演。

2. 音楽交流プログラム（目的①、③）

■安芸高田市合唱組曲：安芸高田市の6町をテーマにした全6曲から成る合唱組曲を、広島県内の作曲家に委嘱し、ワンダフル・アキタカタ音楽祭で披露する。歌は子どもからお年寄りまで年齢を問わず楽しむことの出来る、最も身近な生涯学習の一つである。合唱活動を通して、地域における音楽活動を担う人材の育成および交流を目的とする。

■WA 音ベースステーション：安芸高田市内6町の文化センター及び生涯学習センターが基地局となり、フェスティバル参加者・団体の日々の研鑽を支援する。また、特別合唱団の練習会場を開設し、多くの市民がフェスティバルに参加し、交流できる環境を整える。

■安芸高田市登録アーティスト制度：フェスティバルにおいて聴衆賞を受賞した演奏者・団体は、安芸高田市登録アーティストに認定。市 HP で広く紹介し市民に情報提供するとともに、各地域の祭りやイベント等での積極的な音楽活動を支援し、アーティストの発表の場を拡充する。

■聴衆賞受賞記念演奏会：フェスティバル各部門において聴衆賞を受賞した演奏者・団体は、後日、高宮田園パラッツォで開催される聴衆賞受賞記念演奏会に出演する。ジャンルの異なる優れた演奏者・団体が一堂に会し、日ごろの研鑽成果を発表することで、互いに刺激し合い切磋琢磨することを目指す。

3. 教育プログラム（目的①、②、③）

■まちの記憶プログラム：安芸高田市内6つの中学校が、各町の歴史や文化を基にして安芸高田市合唱組曲の歌詞を作詞する。学校と地域、文化団体が連携を図り、町の個性を次世代に継承していくとともに、地域の文化、歴史を理解し、郷土愛を育むことを目指す。

■音楽アニメーション：地域で活動する音楽家・音楽団体が、学校や社会教育施設と連携を図り、ソルフェージュやアナリーゼなど芸術音楽に関する指導のみならず、エレキ楽器やDTM作曲などのポピュラー音楽に関する指導や講座を行う。

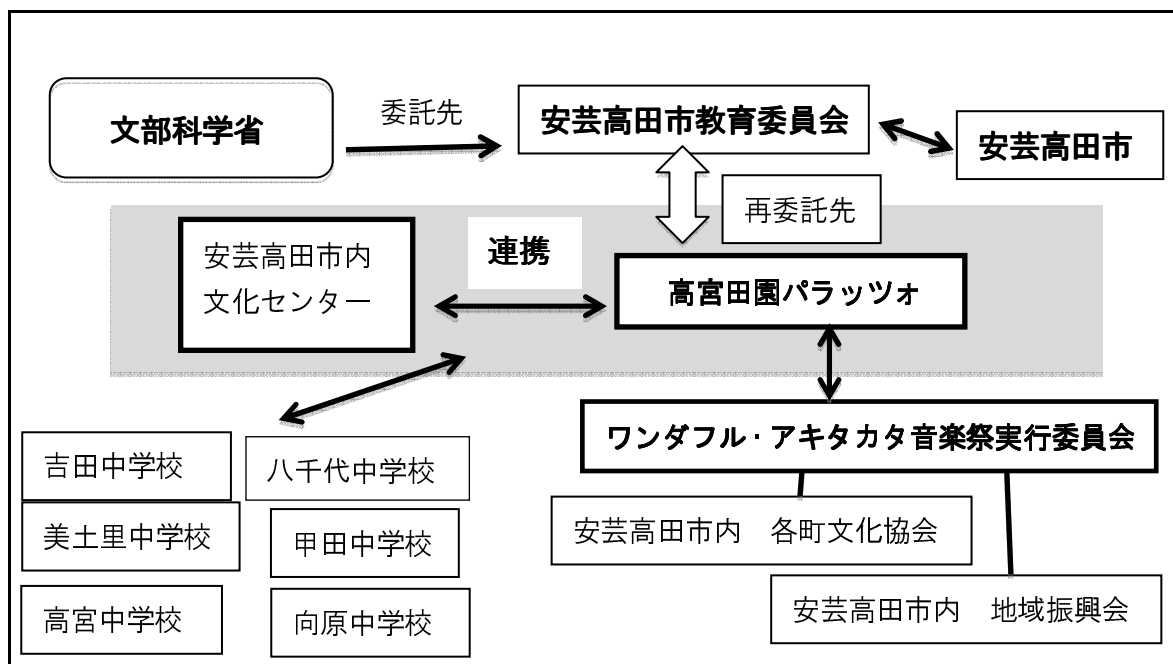
7. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

事業の成果	実施前	実施後
文化センター、生涯学習センター年間利用人数	165,000人	200,000人
安芸高田市内 文化協会加入団体	279団体	300団体
安芸高田市内 文化協会加入団体うち音楽活動団体	59団体	75団体

地域の文化・芸術振興を図っていくことで、地域住民の活力創出をもたらし、以下のような波及効果が期待できる。

- 主体的に地域活性化の中核となるリーダー的人材の発掘、育成
- 文化・芸術活動による住民交流などにより、人と地域の活性化を図る
- 安芸高田市の歴史と文化・芸術を融合させ、新たな魅力を世界へ発信する

8. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）



9. 支援プログラム実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議	★			★				★			★	
作詞	→											
作曲	→											
募集	→											
練習	→											
フェスティバル												★

10. 支援プログラムの評価にかかる項目

(評価体制、評価手法等を本プログラムの成果指標も含め、できるだけ具体的に記載すること。)

1. 評価体制

事業評価委員会をフェスティバル開催後に実施し、プロジェクトについて客観的な評価を受け、次年度の活動につなげる。

委員の構成：5名

大学教授・安芸高田市公立学校校長会連合会・安芸高田市PTA連合会・社会教育委員・安芸高田市ボランティア連絡協議会

2. 評価の観点

(1) 音楽演奏や鑑賞活動をとおして、生きる喜びや感動を伝えることができたか。

(2) 地域の個性や伝統を掘り起し、新しい文化の創造など、地域固有の文化を育て、発信することができたか。

(3) 文化活動に参加する市民同士が交流し、活動を刺激するような創造と出会いの場を提供できたか。

(4) 芸術・文化の創造性を地域の暮らしに結びつけ、クリエイティブで活力ある地域社会を創出できたか。

(5) 本プログラムが、安芸高田市の魅力やステイタスを高めることができたか。

3. 成果指標

(1) アンケート結果にみられる文化・芸術に対する意識の変容

(2) 文化センター、生涯学習センター年間利用者数の増加 (成果指標＝前年度比120%)

(3) 事業参加者数 (成果指標＝延べ2,000人)

(4) 安芸高田市内文化協会加入団体数及び音楽活動団体数の増加

【以下は、複数年度の実施を予定している場合に作成すること】

11. 初年度の実施内容、成果を踏まえた次年度以降の支援プログラム実施内容及び実施方法等

--